

華麗なるステージに酔いしれて

レビュー「虹と夢と愛と」～ファンタジータカラヅカ～

8月11日、南条文化会館で自主公演のひとつレビュー「虹と夢と愛と」～ファンタジータカラヅカ～が行われました。このステージは宝塚卒業生17名で構成。オープニングから宝塚歌劇独特の華麗なショーで始まり、1幕は宝塚歌劇名曲集、2幕は誰もが口ずさめる世界の傑作ミュージカルなどを、メインキャスト、鳳蘭さんや麻路さきさん、星奈優里さんらが中心となり披露。伸びやかな歌声とリズムカルな踊り、楽しいおしゃべりと客席に降りてのファンサービスに、約600人の観客が酔いしれました。



ゲームや児童クラブ体験で交流

河野で出張児童館

8月12日、出張児童館が河野児童館で行われました。これは、地区の違う児童館の子どもたちが親睦と交流を持つ場と行われたもので、児童館で行っているクラブ活動などを披露したり一緒に遊ぶなど、南条、河野児童館の子どもたちや見学に訪れたデイサービスのお年寄りなど50人が交流を深めました。



まず、ゲームを通して班分けで互いに仲良くなることから始め、南条児童館の子どもたちが牧谷に伝わるむかしばなしの人形劇やお茶の作法を披露。「お茶をどうぞ」とお茶を出された河野児童館の子どもたちは、緊張しながらも嬉しそうに飲みほしていました。その後、伝承遊びのめんこ遊びと一緒に童謡を歌うなどして一日を楽しみました。

町の魅力を発信 大道道友会が看板で町をPR

東、西両大道地区の壮年らで結成している大道道友会が、町内西大道のJR北陸線近くの山肌に設置していた大型看板を、町の魅力をアピールする看板に書き換えました。この看板は、今までは「七福神の里・祝南越前町」と書かれ、JRに乗っている人たちがドライバーに新町をPRしてきたもので、合併から半年も過ぎ、さらに町の魅力を発信しようと書き換えを企画。両大道区民から標語を募集し、35点あった応募の中から、加藤滋和さん（東大道）の「歴史ある北陸街道の再発見 南越前町」を選びリニューアルしたものです。



大道地区をPRする「七福神の里」はそのまま残り、7月24日に大道道友会員らで再度設置しました。加藤晴雄会長は「会員は88人。このような看板も手作りできてしまうほど熱心で地域の活性化を願うメンバーばかり。町の活性化に一役かえれば」と出来栄に満足そうでした。

世界に一つのマイスカーフ はす染め体験

はすまつり期間中の7月24日、花はす公園でははす染め体験が行われ、多くの参加者で賑わいました。

まずは、白のシルクスカーフ地を縫い絞り、そのあと、はすの葉と茎を刻んで煮出した染め液と媒染液につけ込みました。何回か繰り返すと次第に素敵な色に染まり、絞りをほどくと模様が浮き上がり、オリジナルスカーフの出来上がり。普段は草木染めをしているという兵庫県淡路市の佐藤さんは、「はす染めに惹かれてやって来ました。はすはこんなにやさしく素敵な色が出るんですね。」と喜びながらスカーフを広げ、参加者らも世界に一つのマイスカーフをみんなで見せ合い喜んでいました。



安全運転をお願いします! 交通安全茶屋開設



7月28日、交通安全協会・河野分会が甲楽城スクールバス車庫前で安全茶屋を開きました。この日は、河野小学校6年生10人も参加。二人一組でドライバーに駆け寄り、「安全運転をお願いします!」と元気な声で呼び掛け、冷たいおしぼりや、母親クラブ手作りの交通安全マスコット、飲み物などを手渡し、ドライバーに安全運転を呼びかけました。



また8月7日には、今庄地区の各分会が合同主催により今庄総合事務所駐車場で交通安全茶屋を行いました。交通安全グッズや冷たい飲み物、今庄地区地域活動連絡協議会員らが用意した手作りの交通安全マスコットなどを手渡し、「暑いですね。運転ご苦労様」とドライバーをねぎらい、炎天下の中、無事故を願い交通安全運動に取り組んでいました。

朗読で学ぶ思いやり 人権のつどい開催



8月8日、今庄地区公民館で今庄、湯尾小学校5・6年生と、今庄中学校1・2年生を対象に、人権のつどいが開かれました。このつどいは、子ども達に自分の周りにいる人を差別しないで、思いやりの心を持ち人に接することを学んでもらおうと開かれたものです。つどいでは、人権に関わる詩の朗読にハーブの演奏が交えられ、「千と千尋の神隠し」や「大きな古時計」など馴染みの曲が流れると、児童らはハーブの美しい音色に耳を澄まし一緒に口ずさんでいました。

また、谷川俊太郎の詩、「生きる」をハーブの演奏に合わせて全員で朗読しました。生徒らは「ハーブの演奏に合わせての朗読は初めて。胸にジーンとききました」、「まわりの人の幸せを祈れば、自分も幸せになれる」という言葉が心に残りました」と感想を話していました。